

交流会と練習見学会

交 流 会

札幌くらぶ会員と札幌楽員との交流会は、オーケストラのファンにとっては、雲の上のような存在の人々と親しく接することのできる貴重な機会であり、札幌くらぶの活動でも大きな柱の一つになっている。

最初に行われたのは、札幌くらぶが発足した1996(平成8)年12月。新聞で報道されたこともあり、多くの人々が参加した。アンサンブルを楽しみ、アルコールも入って、参加した人々は心から楽しみ感嘆したようだ。翌年は、盤溪幼稚園を借りて、手作り料理などで家庭的雰囲気の会となった。しかし、この頃までは、どちらかという札幌事務局にお膳立をしてもらい、事務局のファンへのサービスという色彩が強く、札幌くらぶが会員向けの活動として行うという感じではなかった。

本来の交流会らしい形になったのは、第1回札幌くらぶコンサート終了後、キタラ3Fの大リハーサル室で行われた交流会あたりからだろうか。会員と楽員が親しく話し合えるように、会員・楽員の居住地別のテーブルを設けるなどの工夫がなされた。

その後、札幌くらぶが行う交流会は、様々な形に進化した。定期の2ステージ化によって実施可能になった定演後の交流会。指揮者をメインにした懇談会的な交流会。他のファンクラブとの指揮者・楽員を交えての交流会など、盛んに行われるようになった。特に、JOF Cが発足してからは、年次の総会が行われる都市を訪問しての交流会が年中行事となった。

今後の交流会については、野外でのパーティー、スポーツを絡めた交流会などがスタ

ッフ会議で話題になっているが、実現には時間がかかりそうだ。むしろ、札幌以外の道内の開催が急務か。

練習見学会

オーケストラのファンにとっては、プロのオーケストラはどんな練習をしているのか、ということは非常に興味深いことであろうと思われる。日本中のプロオーケストラのなかには、積極的にゲネプロを公開するなどの努力をしているオケもある。しかし、残念ながら、札幌の場合は練習もゲネプロも公開される機会はほとんどなかった。

札幌くらぶは発足時から、札幌の練習を見学する機会を設けることを活動の柱の一つにうたってきた。指揮者や楽員によっては、練習の場所に関係者以外の人がいることを極端に嫌う場合があり、実現までには札幌事務局と何度となく折衝を重ねた。

最初に実現したのは、1997(平成9)年10月5日、札幌の練習場所となっている芸術の森アート・ホールであった。8日に行われる定期演奏会に向けての1回目の練習日、指揮者は山下一史さん。集まった約60人の会員は緊張し、固唾を飲んで2階席からホールを見下ろしていた。いよいよ山下さんが登場し、練習が開始される。ほとんどの会員が初めての体験であり、予想していたのとは随分違う練習風景に「なるほど、プロはこういう練習をしているのか」と感心させられた。素人目には、練習という感じではなく、正に指揮者と楽団による音楽作りという感じだ。パート練習のようなことをどうやるのだろう、などと幼稚な興味を持って参加したものにとっては、本当に圧倒されたプロの練習だった。

芸術の森という交通不便な場所ながら、毎年1回は行ってきた練習見学会には、毎回熱心な会員が少なくとも20～30人が参加して

きた。一時は、札幌がキタラでゲネプロを公開したが、それも中断しており、再び芸術の森での見学会が再開される予定。